

4 観光交通の改善ポイントの把握

(1) 公共交通優先の観光地づくり

➤ 公共交通アクセスの充実

- アンケート調査で見た京都観光への不満の多くが、交通に関するものであるように、観光交通の問題が京都観光全体の魅力低下を招いている可能性がある。
- 過年度調査以降に開通、延伸した地下鉄東西線の沿線に位置する「醍醐寺周辺」では、その訪問者のほとんどが、地下鉄東西線を利用するようになっている。また、「醍醐寺周辺」の訪問者は、過年度調査時より 1 日に訪問する観光地数も、観光地での総滞在時間も増加している。

観光地での総滞在時間：一日の観光時間のうち、移動時間を除く観光地で費やす時間

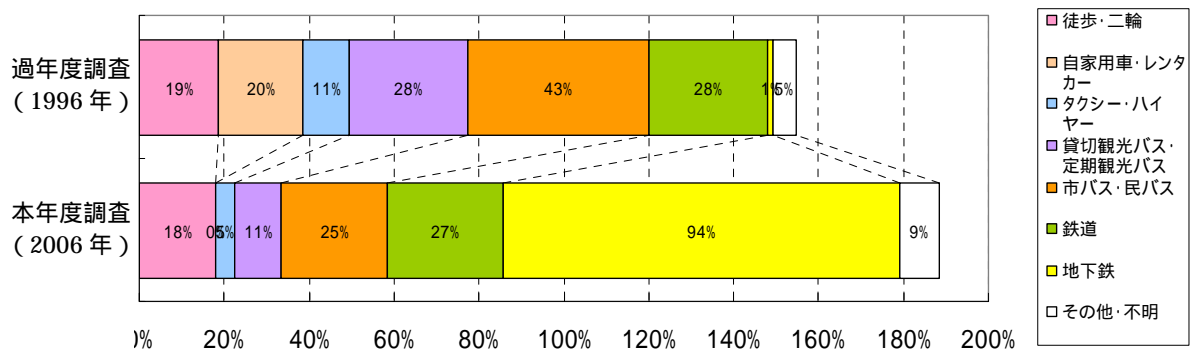


図 「醍醐寺周辺」 他の観光地間の利用交通手段の変化(交通手段は複数回答)

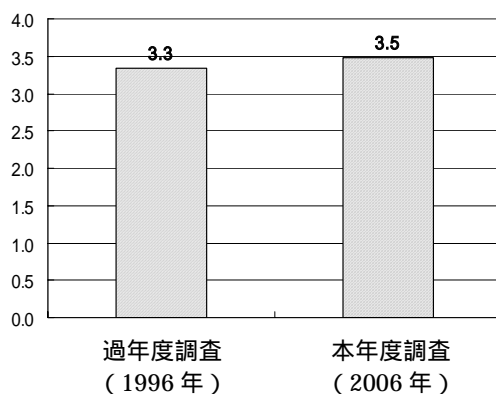


図 「醍醐寺周辺」訪問者の一日に訪問する平均観光地数

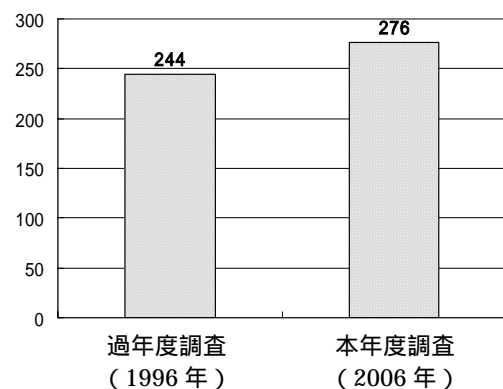


図 「醍醐寺周辺」訪問者の観光地での総滞在時間(一人あたりの平均)

➤ 公共交通優先の観光地づくり

- 交通への不満の中でも道路に対する不満は非常に多い。特に、道路の混雑に対する不満が最も多く、東山地区や京都駅地区をはじめ観光客が集中する観光地周辺では、道路混雑が著しく、旅行速度の大きな低下も確認できる。
- 公共交通利用者は、自動車利用者 に比べ 1 日に訪問する観光地数が多く、観光地での滞在時間も 30 分程度長いことから、より充実した観光を行っているともいえるが、道路混雑がこの差の一因となっていると考えられる。
- こうしたことから、公共交通優先の観光地づくりを進めることは、道路混雑の緩和による観光地の魅力向上や、観光活動の充実など、京都観光の今以上の活性化に繋がる可能性があるといえる。観光客が希望する観光交通施策でも自動車の規制が多い。
- 京都市では自動車を抑制する施策として P & R が実施されているが、アンケート調査では、自動車利用者の 8 割以上が施策の実施を知らず、うち 3 割以上が「知っていたらたぶん利用した」と回答している。TDM（交通需要マネジメント）施策 は、利用者への周知が成否に大きな影響を及ぼすことから、広報が重要といえる。

自動車利用者は、自動車のみを利用して観光した回答者ではなく、観光中に一度でも自動車を利用した回答者を対象としている。
 TDM（交通需要マネジメント）施策とは、時間・経路・交通手段の選択や交通行動(自動車の利用方法など)の変更により、道路交通混雑を緩和する手法である。

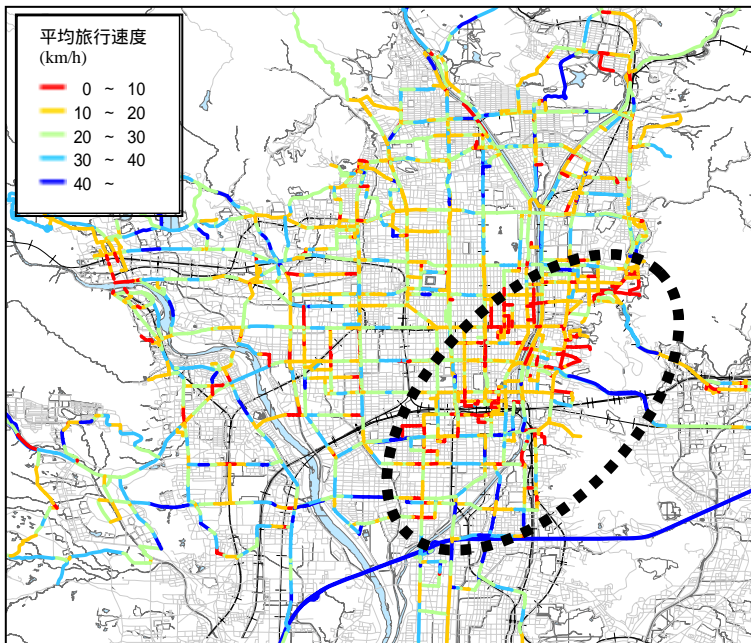


図 道路の旅行速度

6 時 ~ 23 時のデータを利用して算出

表 道路に対する不満

	自動車利用 移動回数	不満を挙げた 移動回数	不満の 割合
道路が混雑	885	611	69%
駐車場がない・場所や 入り口がわかりにくい		273	31%
道路が細い		258	29%
目的地への経路が わかりにくい		203	23%
駐車場代が高い		187	21%

道路に対する不満は、アンケート調査「交通手段に対する不満」のうち道路に関するものの集計値

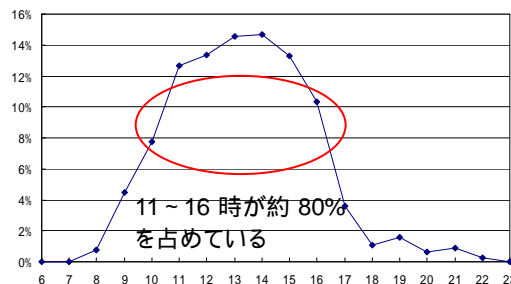


図 旅行速度算出に用いたデータの時刻分布

(施設数)

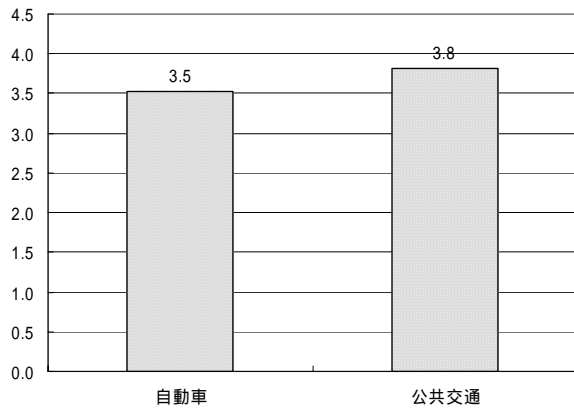


図 自動車利用者と公共交通利用者の一日に訪問する平均観光地数

(分)

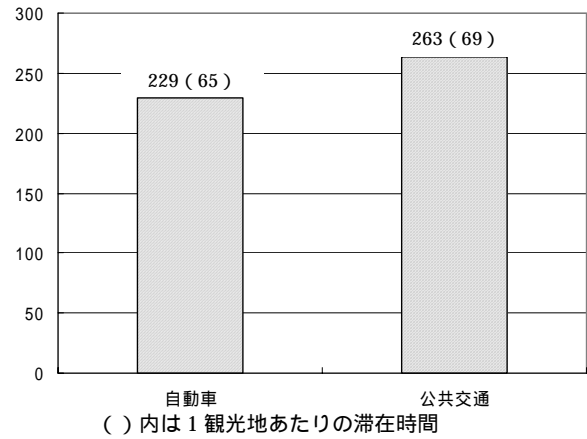


図 自動車利用者と公共交通利用者の観光地での総滞在時間(一人あたりの平均)

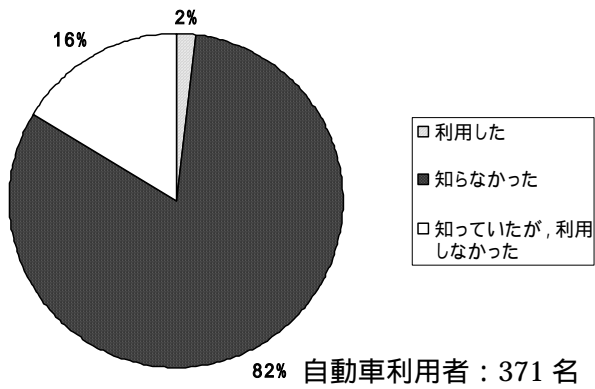


図 自動車利用者の P&R の利用状況

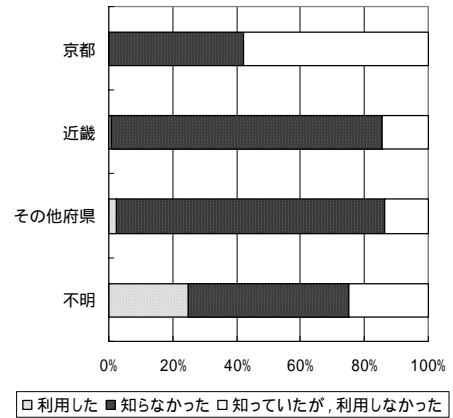


図 居住地別の P&R の利用状況 (自動車利用者のみ)

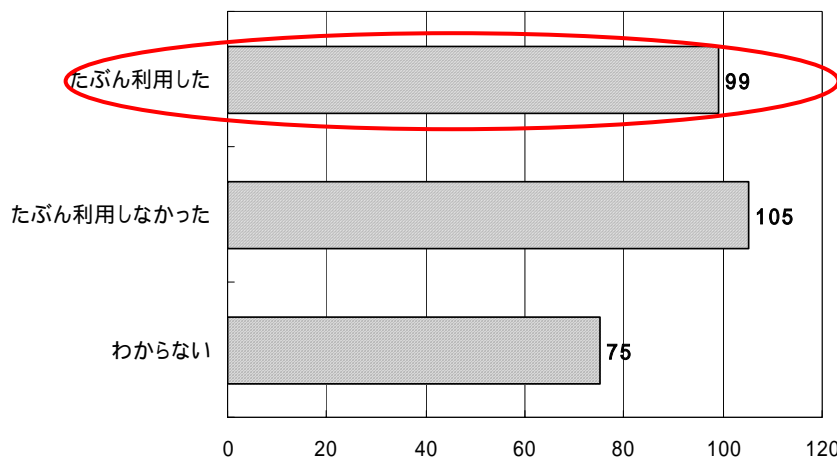


図 P&R 利用意向(自動車利用者のうち知らなかったと回答した観光客のみ)

「知らなかった」回答者：283名

(2) 鉄道の利便性向上

➤ 購入方法等も含めた公共交通フリーチケットの案内

- 鉄道利用者の不満は、「鉄道運賃が高い」が最も多いが、そのうち2割が「市バス専用一日乗車券カード」、「市営地下鉄 1day フリーチケット」、「京都観光一日、二日乗車券」といったフリーチケットのことを「知らなかった」と回答している。
- また、フリーチケットのことを「知っていたが利用しなかった」観光客の1割は、「買い方がわからなかった」と回答し、加えてフリーチケットの充実を望む観光客も非常に多い。

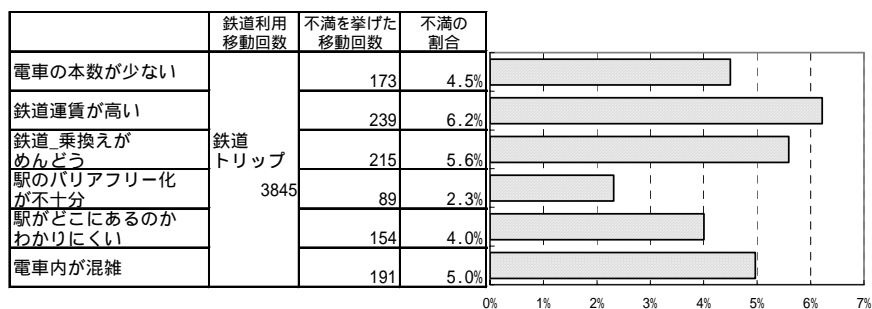


図 鉄道に対する不満

鉄道に対する不満は、アンケート調査「交通手段に対する不満」の鉄道に関するものの集計値

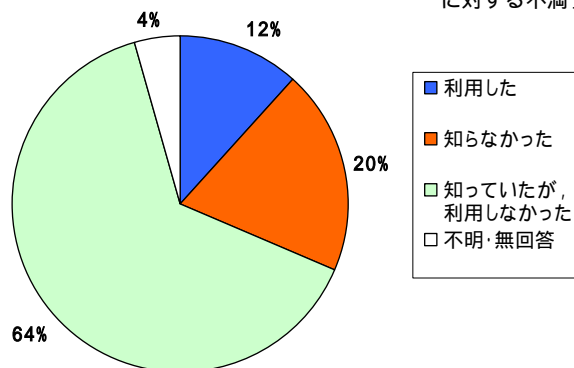


図 「鉄道運賃が高い」不満をもつ観光客のフリーチケットの利用状況

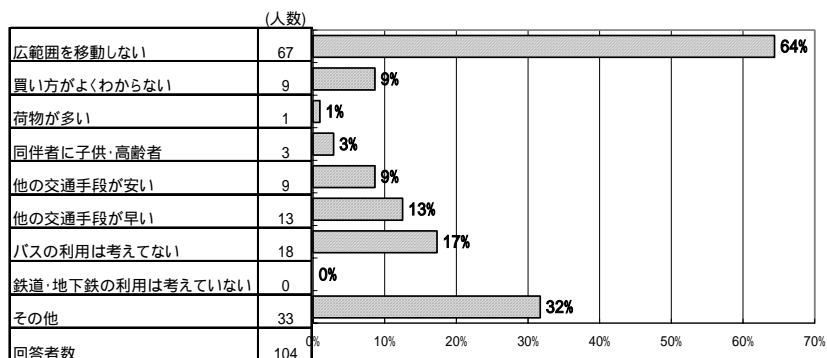


図 フリーチケットを「知っていたが利用しなかった」観光客の利用しなかった理由

(3) バスの利便性向上

➤ バス停位置やバス系統の案内

- バスを利用した移動の約 2 割で「どのバスに乗るのかわかりにくい」または「バス停がどこになるのかわかりにくい」という不満が挙げられている。特に「祇園方面」、「河原町・新京極周辺」などバス系統が集中し、乗り場が複数存在する観光地や、「金閣寺周辺」など観光客が集中する観光地では不満が多い。

表 出発地別のバスに対する不満

「どのバスに乗るのかわかりにくい」または
「バス停がどこにあるのかわかりにくい」

出発地	バス利用人数	うち不満を挙げた人数
大原・八瀬方面	38	7
鞍馬方面	13	0
宝ヶ池方面	10	1
上賀茂神社周辺	60	10
高雄方面	54	6
修学院・詩仙堂周辺	28	4
光悦寺周辺	16	3
北山通周辺	9	2
大徳寺周辺	41	11
金閣寺周辺	129	26
下鴨神社周辺	55	12
北野天満宮周辺	32	9
衣笠・御室方面	90	17
嵯峨野方面	61	7
銀閣寺周辺	70	19
哲学の道周辺	73	16
平安神宮周辺	46	10
御所周辺	31	8
花園方面	10	2
二条城周辺	37	8
二条駅周辺	8	1
太秦方面	10	1
嵐山方面	76	14
祇園方面	83	22
河原町・新京極方面	63	17
松尾大社周辺	24	5
清水寺周辺	88	20
三十三間堂周辺	60	10
京都駅周辺	79	11
桂離宮周辺	1	0
東福寺周辺	59	13
東寺周辺	29	9
伏見稲荷大社周辺	6	0
醍醐寺周辺	15	2
城南宮周辺	1	0
伏見周辺	2	0
京北方面	1	0
合計	1508	303

モニターAさんの移動経路(徒歩)
モニターAさんの移動経路(バス)

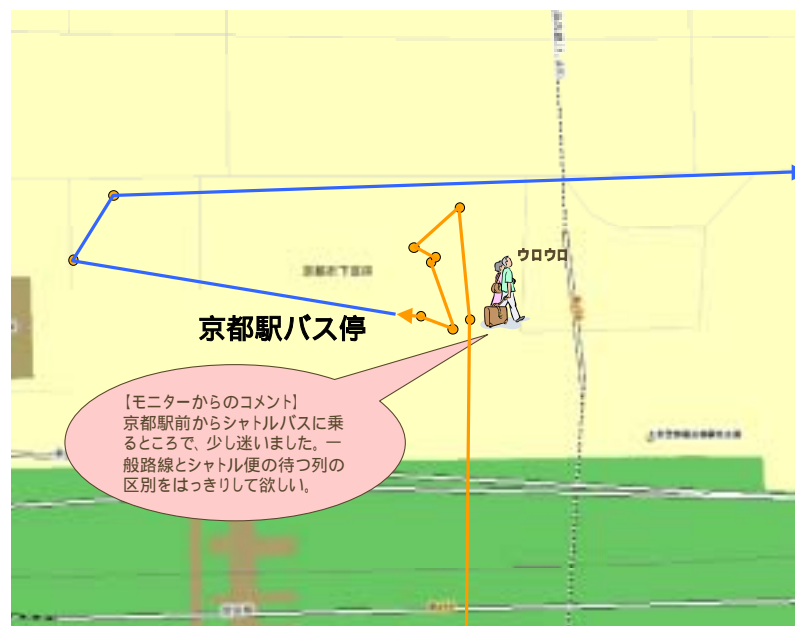


図 「京都駅周辺」での利用経路(徒歩)

不満を挙げた人数：

「どのバスに乗るのかわかりにくい」または
「バス停がどこにあるのかわかりにくい」

(4) 自動車利用の効率化

▶ 観光地までの経路案内

- 多くの自動車利用者が「目的地への経路がわかりにくい」、「駐車場がない・入り口がわかりにくい」という不満を挙げており、この不満はカーナビの利用者にも見られる。
- こうした道路での迷い行動は、道路混雑の悪化や、通過交通の流入による生活道路の環境悪化の一因となっている可能性もある。

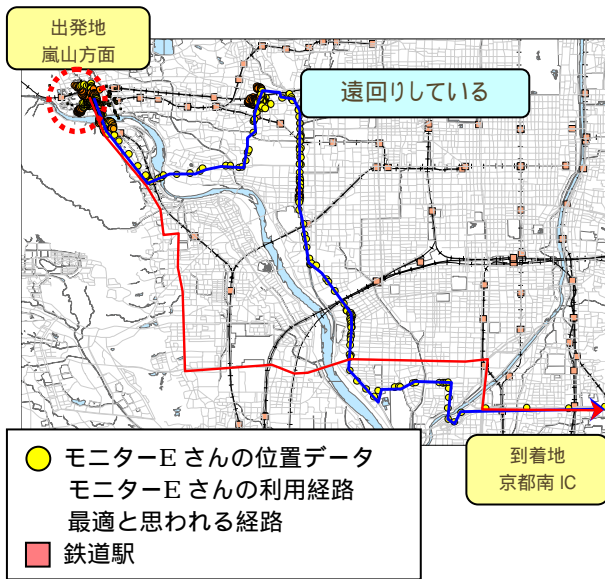


図 「嵐山方面」「京都南 IC」間の利用経路

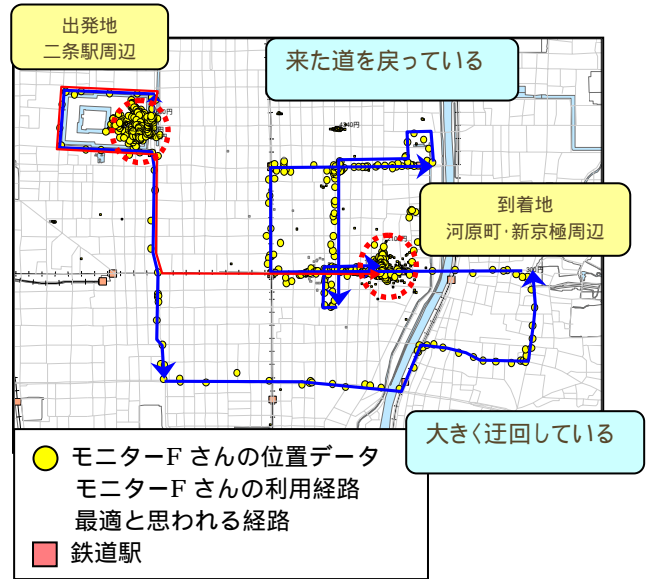
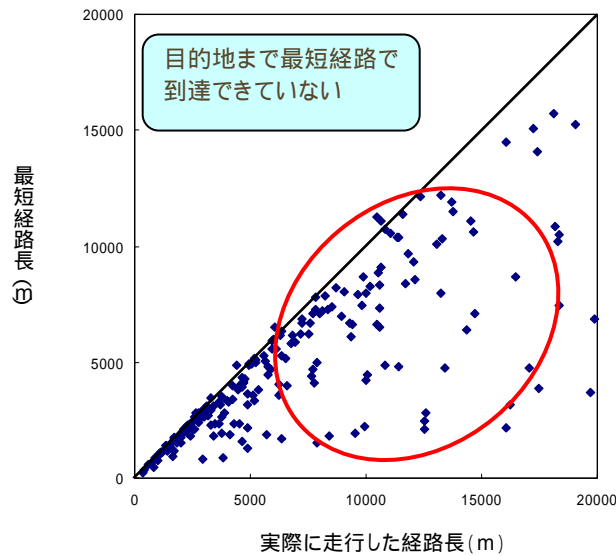


図 「二条城周辺」「河原町・新京極方面」間の利用経路



注：最短経路長はセンサ対象道路網を用いて算出しているため、実経路長よりも長くなる場合がある。

図 OD間の最短経路延長と実際の経路延長

5 期待される施策の効果と今後の展開

観光交通は、1年のうち特定の期間だけに集中する特異な交通行動である。そのため、既存の調査手法では観光交通行動の実態の把握することは困難であり、これまでの実績を見ても、観光交通を定量的に把握した実態調査は少ないのが現状である。

その中で今回京都市にて実施した、アンケート調査とプローブパーソン調査を連携させた実態調査によって、観光客の意見や詳細な交通行動を把握することができた。

本調査手法は、観光交通の実態の把握が困難である都市において、実態把握調査のモデルケースになると考えられる。

本調査手法を用いることにより得られた知見を以下に示す。

【知見】交通行動に基づいた交通課題の抽出や交通施策の改善方法を把握することができた。

【具体例】P&Rは施策の周知が十分ではなく広報が必要であるということと、京都観光の事前の情報源として観光雑誌を挙げている観光客が多いことを把握できたことより、P&R推進には、観光雑誌でP&Rの広報を実施することが有効であるという知見が得られた。

【知見】本調査手法を用いることにより、観光施策を具体化する際の基礎データを得ることもできた。

【具体例】観光客の観光地～駅間の移動経路を把握できたことより、駅までの経路を効果的に行える案内看板の設置箇所を把握することが出来た。

アンケート調査とプローブパーソン調査を連携させた本調査のノウハウは、他都市においても適応が可能であり、観光行動を定量的に把握するための手法を確立することができた。

また、京都市における地下鉄東西線延伸が観光行動を活発にした効果やP&R施策推進のための効果的な広報の手法といった本調査で得られた知見を他都市において活用し、公共交通のアクセス利便性の向上施策やP&R施策を実施することにより、他都市においても観光交通の円滑化の実現に繋がるものである。